

2 研究の実際 > (2) 活動プログラムの実際 > エ 活動プログラムの実践

<小学校> 活動プログラム③トラブル解決のスキル



ペアやグループを意図的に構成して、実践しました！

1 活動プログラムの展開案において、グループでの活動がある場面を確認しました。

【活動プログラム5時目の展開案より】	【活動プログラム6時目の展開案より】
<p>【スライド1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2人グループになり、「もめている役」(2人)と「間に入る役」と「見守る役」に分かれて練習します。</li> <li>○ 「もめている役」と「間に入る役」の人は、演技したときの感じを覚えておきましょう。また、「見守る役」の人は、3人の様子をよく見ておきましょう。</li> </ul> <p>【スライド2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 話したことをグループで交流しましょう。</li> <li>○ もめている人の間に入る時、勇気が必要だった。</li> <li>○ もめている役をしたとき、交互に話を聞いてもらっているうちに、イライラが治まってきた。</li> <li>○ Cさんが2人の真ん中に立つことができている。もめている2人にとっては、Cさんの立つ場所は重要だと思える。</li> </ul>	<p>【スライド1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2人グループになり、「もめている役」(2人)と「間に入る役」と「見守る役」に分かれて練習します。今日は、役を交代しながら全部の役を体験します。</li> </ul> <p>【スライド2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 練習を振り返ります。</li> <li>○ グループで話し合うときに、それぞれの立場で演じたときの気持ちや全体を見たときの気付きを出せるようにする。</li> <li>○ 授業者のフィードバックを行う。</li> </ul>
<p>学習活動5 トラブル解決のポイントに気を付けながら練習する</p> <p>学習活動6 本時の学習を振り返る</p>	<p>学習活動3 トラブル解決のポイントに気を付けながら練習する</p> <p>学習活動4 グループ練習についてのシェアリングをする</p> <p>学習活動5 本時の学習を振り返る</p>

資料1 活動プログラム5、6時目におけるグループ活動の場面



2 活動プログラム②の実践後に「グループ活動アンケート」(2回目)を実施しました。

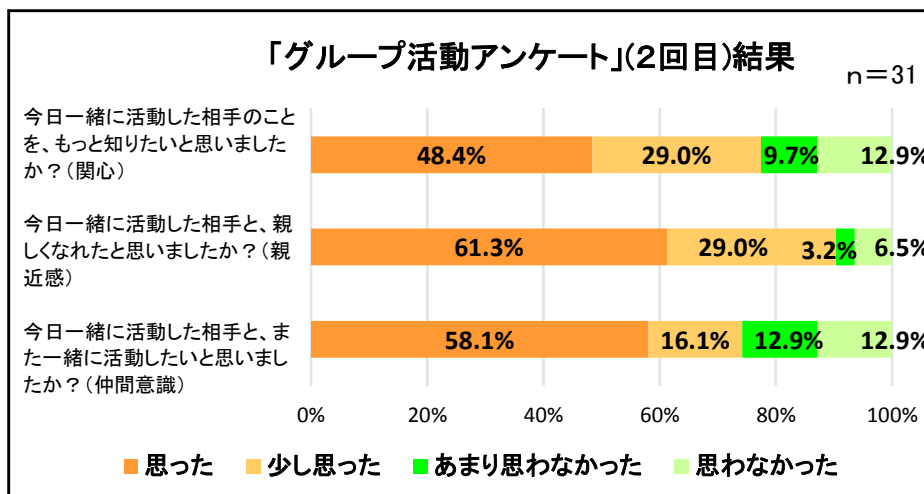


図1 「グループ活動アンケート」(2回目)結果



**3 学習のねらい及び「グループ活動アンケート」(2回目)と「トラブルについてのアンケート」の結果から、以下のようなグルーピングのための視点を挙げました。**

○友達のトラブルの場面に関わるロールプレイングの体験を通して、メディエーターとしてのスキルを学ぶため

- ・相手のことを考えて話を聞いたり話をしたりするなど友達に対して気遣いができる児童を各グループに配置する。
- ・「グループ活動アンケート」(2回目)において、活動プログラム②のメンバーと異なる友達とも活動したいといった意見も多かったことから、活動プログラム②のメンバーと異なる児童同士を組む。

○グループでの活動が停滞しないようにするため

- ・「トラブルについてのアンケート」で声掛けの意識が低い児童同士を組まない。
- ・同じトラブルの場面を経験したり、トラブルが継続したりしている児童同士を組まない。



**4 「PIGシート②」を活用して、「グループ活動アンケート」(2回目)と「トラブルについてのアンケート」の結果及び担任の観察を基にして総合的にアセスメントし、グルーピングを行いました。**

※資料2は、個人情報保護のため、一部データを加工しています。

										【取扱注意】		
PEGシート② (小学校)		振返 ③	振返 ④	グループ活動 アンケート [実施日 ○/○]			理由などの 特記事項	担任等の観察 [実施日 ○/○]		グループの編成		
No.	氏 名	学習に進んで参加できた	学習に進んで参加できた	活動した相手をもっと知りたいと思う	活動した相手と親しくなれたと思う	活動した相手とまた一緒に活動したい		「1」が多い	この一週間で、友達とのトラブルがあった	怒りについて知る	トラブル未然防止のスキル	※グループ へ例)要支援群(→「Q1U」 不登校傾向、○○さんとは×、 事前説明が必要、◇◇部に在籍 など トラブル解決のスキル
1	○○ ○○	3	3	2	3	4	知っている		◎	A	H	A
2	○○ ○○	2	4	1	4	1	前回と隣が一緒	✓		G	H	C
3	○○ ○○	4	4	1	2	2	知り尽くしている			I	A	G
4	○○ ○○	4	4	1	1	1	自己中心的			E	I	H
5	○○ ○○	3	4	2	3	1	知っている			D	E	H
6	○○ ○○	4	4	4	4	2	他の人とも		◎	G	C	B
7	○○ ○○	4	4	3	4	4		✓		A	G	F
8	○○ ○○	4	4					✓		H	B	D
9	○○ ○○									D	F	I
10	○○ ○○	4	4	4	4	1	他の人とも		◎	F	A	E

資料2 「PIGシート②」を活用したグルーピングの実際



5 実際の座席は、以下の点に気を付けて配置しました。今回、配慮した児童は7名です。

※資料3は、個人情報保護のため、一部データを加工しています。

- ・気遣いができる児童が最初に「間に入る役」となって、グループ活動に取り組みさせることができるようにするため、その児童の座席を各グループの右前方に配置する。
- ・声掛けの意識が低いなど配慮を要する児童が、モデルとなる児童を見ながらグループ活動に取り組むことができるようにするため、その児童の座席を各グループの左後方に配置する。
- ・授業実践の1週間以内にトラブルがあった児童同士の組合せを避ける。
- ・配慮を要する児童を含むグループは、可能な限り教室前方に配置する。

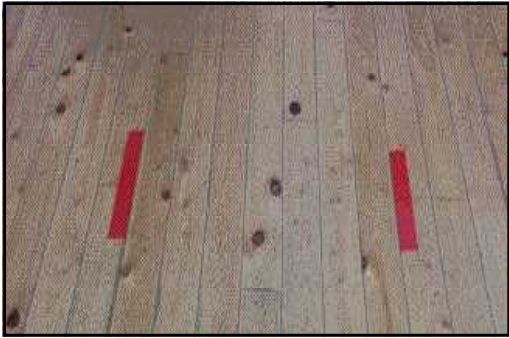
【座席表上の記号】



- ◎(気遣いができる児童)
  - ・相手のことを考えて発言ができる
  - ・しっかり者
- ★(配慮を要する児童)
  - ・友達と関わるのが苦手
  - ・もじもじさん

資料3 座席配置の実際



6 実際の授業は、以下の通りです。

過程	●配慮の実際	・児童の反応や教師の気付き
【授業前】	<p>●①友達と関わるのが苦手などの配慮した児童、②相手のことを考えて発言するなどの気遣いができる児童の順でグルーピングを行い、各グループの左後方に①、右前方に②とし、①と②が対角となるように優先的に座席を配置した。</p> <p>●トラブルの場面を取り扱うグループ活動において、児童が安心して活動に取り組むことができるようにするため、「もめている役」の立ち位置にテープで印を付け、適度な間隔を確保した。</p>  <p>【テープの間隔(70cm)】</p> <p>●授業当日の朝、担任から児童に主な学習内容とそれに伴った座席配置について伝えた。</p>	<p>・児童の反応や教師の気付き</p> <p>・座席配置については、黒板で学級全体に対して座席表を掲示して説明した。そのため、座席の変更についてはスムーズに進めることができた。</p>

<p>【授業中】</p>	<p>●①配慮した児童が「見守る役」、②友達に対して気遣いができる児童が「間に入る役」として活動を始められることができるように、配役についての説明をした。</p>  <p>【グループ活動の様子】</p>	<p>・相手のことを考えて発言することができる児童の姿が配慮した児童にとっての良いモデルとなり、トラブル解決のポイントについての理解が深まった。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>「見守る役」も大変だったけど、Cさん役（「間に入る役」）の大切さが分かって良かった。</p> </div>  <p>【配慮した児童の感想】</p>
<p>【授業後】</p>	<p>●配慮した児童の様子を観察し、必要に応じて声掛けをした。</p>	<p>・授業後に女子3人がもめる場面があったが、その中にいた配慮した児童がそのもめごとを自分たちの力で解決しようとしていた。</p>

**実践してみたら、このような児童の姿が見られました！**

◆授業後の児童の反応(「グループ活動アンケート」・「振り返りシート」より)  
 ※配慮した児童は7名(1名欠席)で、グラフ上に人数を( )で示しています。

○グループ活動における児童の友達に対する意識の変化について  
 ・「グループ活動アンケート」の質問項目に対する児童の回答の結果  
 ※配慮した児童は7名(1名欠席)で、グラフ上に人数( )で示しています。

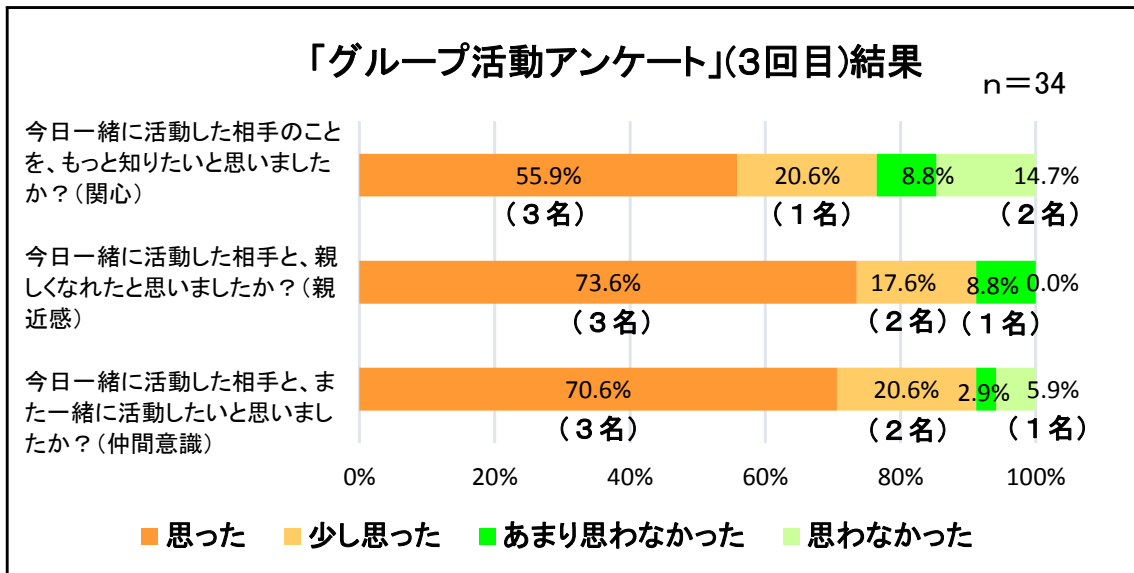


図2 「グループ活動アンケート」(3回目)結果

・配慮した児童の感想



このグループの人と、もっといろいろなことをしてみたいと思いました。

○グループ活動で取り扱った「トラブル解決のスキル」の学習について  
 ・「振り返りシート」の質問項目に対する児童の回答の結果  
 ※配慮した児童は7名(1名欠席)で、グラフ上に人数( )で示しています。

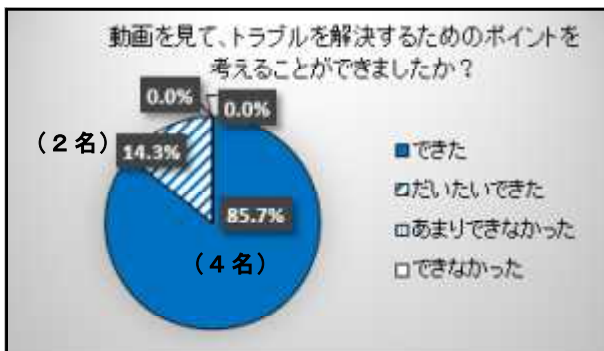


図3 トラブル解決のポイントの理解について(5時目)

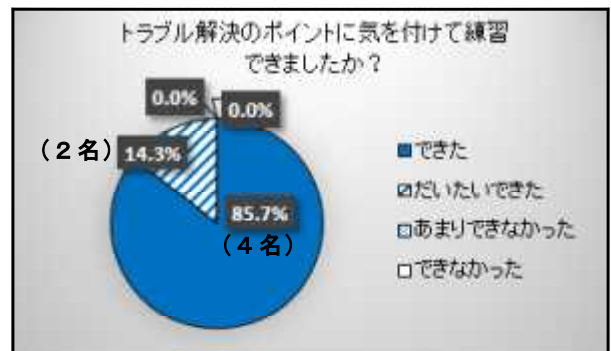


図4 トラブル解決の練習について(5時目)

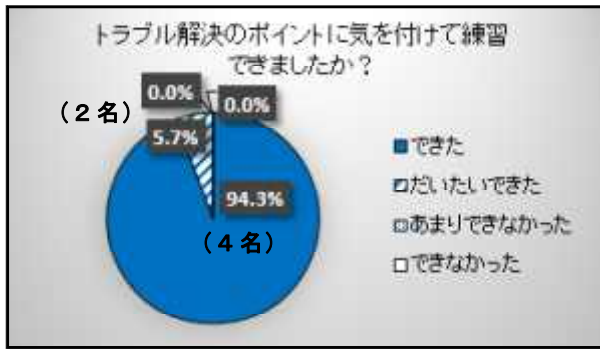


図5 トラブル解決の練習について(6時目)

・児童の感想



実際にCさん役(間に入る役)をやってみて、「トラブル解決のポイント」を守ってできたので良かったです。

トラブルが起きたときに気を付けることや大切なポイントなどがよく分かりました。Cさんのようにもめている2人の中にも入るときも気を付けることが多いんだなとびっくりしました。



○グループ活動を取り入れた学習への参加状況と学習内容に対する活用意欲について

・「振り返りシート」の質問項目に対する児童の回答の結果

※配慮した児童は7名(1名欠席)で、グラフ上に人数( )で示しています。

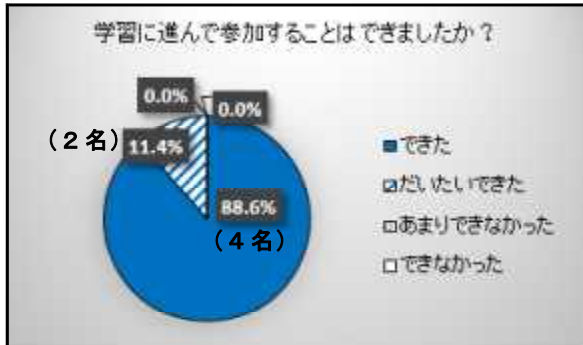


図6 学習への参加状況について(5時目)

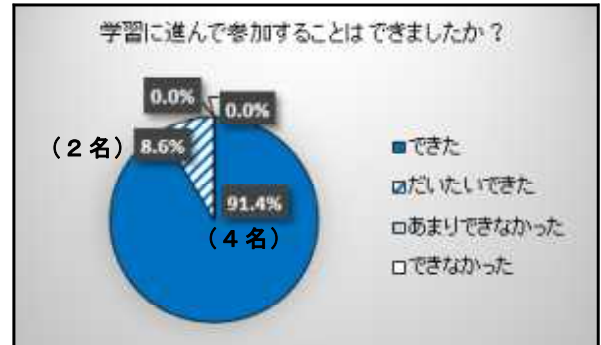


図7 学習への参加状況について(6時目)

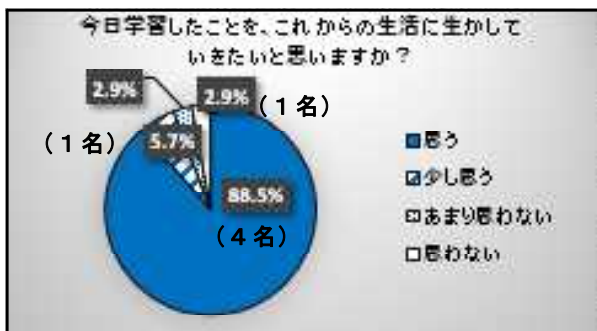


図8 学習内容に対する活用意欲について(5時目)

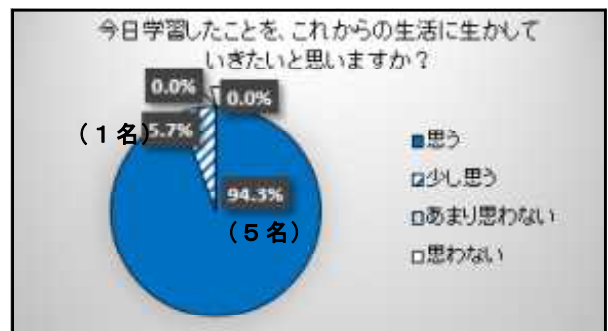


図9 学習内容に対する活用意欲について(6時目)

・児童の感想



誰かが間に入ることで、騒ぎが収まっていくので、これからもめめごとがあったときはトラブル解決のポイントを使ってみようと思いました。

グループで一緒に活動して楽しかったです。もし、ケンカやめめごとがあったら、実際にCさんのようにその間に入ってみたいと思いました。



◆授業後の教師の感想



6時間の活動プログラムを終えて、学級内でトラブルがあっても子供たち自身で和解することができるようになってきました。また、男子の頑張りを褒める女子の姿や、トラブルの解決に努めようとする子供の姿が見られました。学級経営がやりやすくなり、次年度も学級担任として是非この活動プログラムを学級経営に生かしたいと思います。

配慮した児童の「グループ活動アンケート」には、「また一緒になりたい」「このメンバーで他の活動もしてみたい」などの記述が見られました。また、1～4時目のグループ活動では消極的な態度だった2名の児童も、5～6時目になると積極的にグループの友達と関わる姿が見られました。